

【指導上の留意点及び配慮事項】

(1) 家庭科の特質と学習指導

ア 実践的・体験的な活動を中心とした指導

「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活技術」の各科目に配当する総授業時数のうち、原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること。この場合の実験・実習には、調査・研究、観察なども含まれ、生徒の実践的・体験的な活動を中心とした学習指導が重要であることを示したものである。

イ 生徒の実態に応じた指導

家庭科の学習は生活事象を対象としており、学習した内容が実際の生活の場で活用できるようにすることを目指している。生徒の生活する家庭や地域の環境、課程や学科の特色等を考慮し、生徒の特性等に応じて適切な工夫を加え、効果的な指導をする必要がある。また、生徒一人一人の学習内容の習熟の程度や興味・関心に対応して、個性を生かす教育の充実が図られていることなどにも配慮する必要がある。

ウ 問題解決的な学習を重視した指導

家庭科では、家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を具体的、実際に学習させるとともに、問題解決能力を身に付けさせることが重要である。したがって、各科目の学習で習得した知識と技術を生かして、生活を見直し、課題を見いだして積極的に改善し、各自の家庭生活や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることをねらいとして、3科目ともに「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を内容として示している。

(2) 学習指導の工夫・改善

ア 個に応じた指導の充実を図ること

各科目の指導に当たっては、(中略)個に応じた指導の充実を図ること。

一斉指導の中での個別指導、学習課題・学習コースの選択による学習、個別学習・グループ学習など学習形態の工夫、教材や題材の工夫、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段・教育機器等の活用

イ 実践的・体験的な学習の充実を図ること

家庭生活の意義を理解させるとともに、内容を総合的にとらえて実生活に生かすなどの実践的な態度を育てるためには、具体的な事例や題材について実践的・体験的に学習させ、いろいろな場面に応用できる力を付けることが大切である。特に、家族や家庭生活、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、消費生活と環境などの内容について、理論のみに偏るのではなく、実践的・体験的な学習を工夫する必要がある。

ウ 問題解決的な学習の充実を図ること

問題解決的な学習を充実させるためには、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を重視する必要がある。授業の中で課題設定、計画立案、実践について適切に指導し、各自に反省・評価をさせ、発表させることにより、生活に対する課題意識をもつことができ、課題解決を行う学習方法を身に付けることができる。

エ コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段等の活用を図ること

家庭科の学習にこれらを導入し、生徒の学習意欲を高め、授業の効率化や活性化を図るようにする。